

関東第一高等学校 サロンコンサート

2011.6.22

■今回のコンサートの特徴

今回のコンサートが普通のコンサートとは少し違うところは、通常、何人もの人で演奏するアンサンブルを一部、コンピュータとシンセサイザーで代用することです。今回、コンピュータやシンセサイザーを持ち込むことが不可能でしたので、あらかじめコンピュータとシンセサイザーで作ったものをCDに収めて使います。

■曲目について

1. モーツァルト作曲 クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581 第一楽章

クラシックで五重奏とは、弦楽四重奏 + 独奏楽器の演奏形態のことを言います。この曲はクラリネットが独奏楽器なのでクラリネット五重奏曲というわけです。

弦楽四重奏は第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ピオラ、チェロの編成ですが、この4パートをコンピュータを使って作った演奏で代用します。

この曲は、モーツァルトが晩年にシュターラーというクラリネットの名手に会って、その演奏に感激し作曲したものでモーツァルトの作品の中でも傑作としてよく知られています。

2. ブラームス作曲 クラリネット三重奏曲 イ短調 作品 114

クラシックで三重奏とは、ヴァイオリン、チェロ、ピアノの編成のことを言います。

クラリネット三重奏とはヴァイオリンに代わってクラリネットが演奏する演奏形態です。

今回はチェロとピアノの部分をコンピュータを使って作った演奏で代用します。

この曲はブラームスが晩年になり制作意欲が衰えたのを感じて、作曲界から引退しようと思っていたとき、ミュールフェルトというクラリネットの名手の演奏聴いて、いたく感動し再び制作意欲が湧いて作曲したものです。ブラームスは先のモーツァルトの五重奏曲を聴いて「神の作った曲だ」と言っていたそうですが、同時に自分は神になれなかったと嘆いたという伝説が残っています。しかし、この三重奏曲もクラリネットの名曲として名高いものです。

3. ショピン作曲 イパネマの娘

アントニオ・カルロス・ショピンの代表作、ボサノヴァの名曲です。

ピアノ伴奏だけのものに、コンピュータを使って、ベース、ドラム、ギロ、トライアングルをつけ加えました。

4. ポーランド民謡 クラリネットポルカ

誰もが聴いたことのある曲だと思います。クラリネットに限らずいろいろな楽器で演奏されます。

伴奏をコンピュータでピアノ、ベース、ドラム、ホルンが演奏するように作りました。

※ コンピュータを使って音楽を作ることを
Desk Top Music = DTM または
Digital Audio Workstation = DAW と言います。